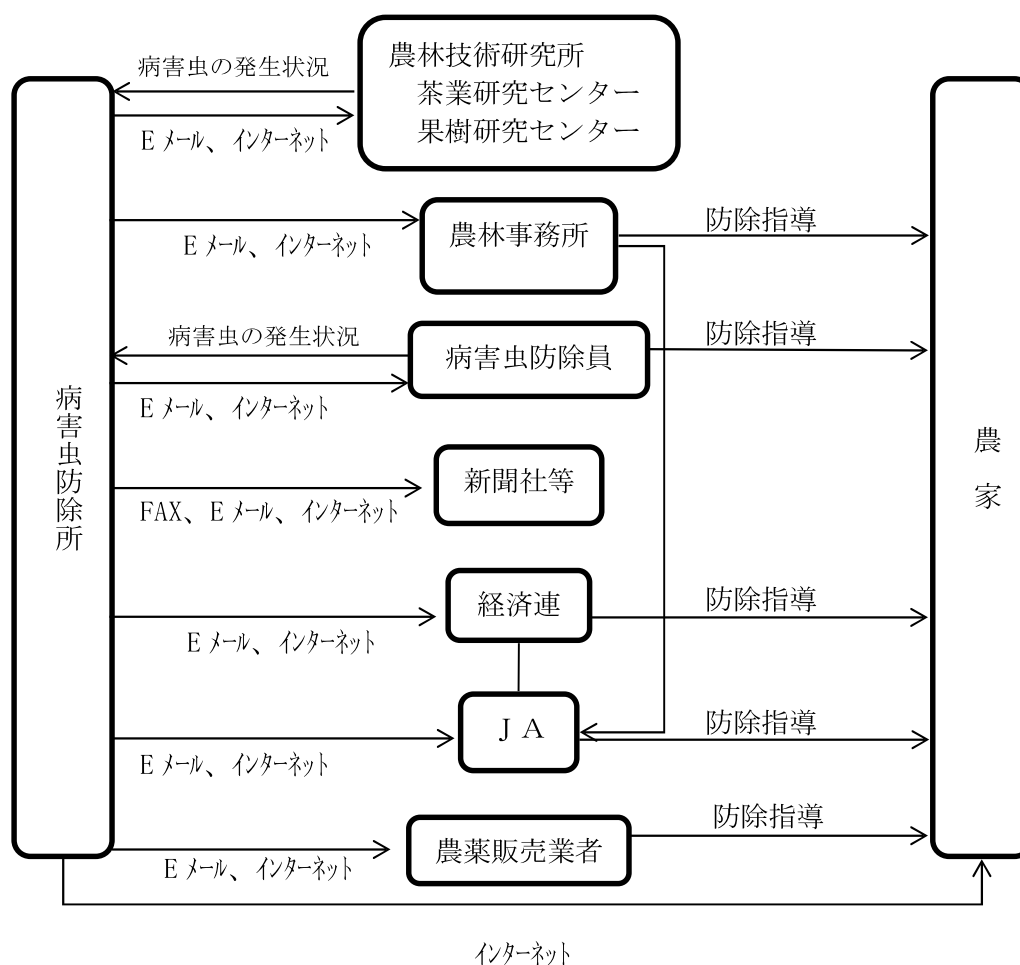


Ⅱ 病虫害発生予察情報の発表と提供先

1 病虫害発生予察情報の提供体制と指導体制



F A X : ファックスでの一斉送信

インターネット : 防除所のホームページから予察情報や防除情報を閲覧

Eメール : インターネットのメールを利用し送信

*・F A X、Eメールは予察情報のみ提供

・インターネットは予察情報や各種トラップのデータ、病虫害発生予測等を提供。

・国へは指定様式で報告、他都道府県へはJPP-NETの掲示板への掲載により情報提供。

2 インターネットによる情報提供

(1) 目的

効率的で的確な病虫害防除対策を推進する一環として、病虫害発生予察情報の迅速な周知徹底を図るとともに、広く県民に利用してもらうため、インターネットによる予察情報の公開を行った。

(2) 提供内容

インターネットによる提供

① 提供期間 令和6年4月1日～令和7年3月31日

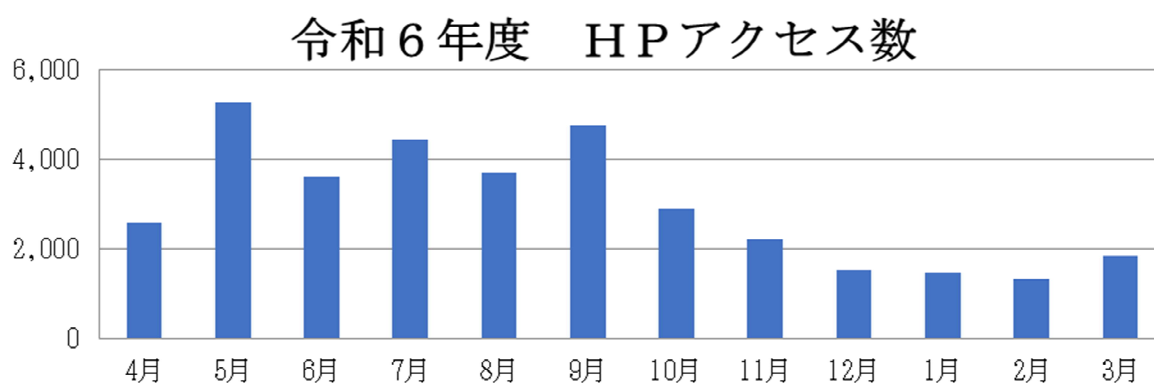
② 提供方法 静岡県庁のサーバ上にホームページを開設し、インターネットにより閲覧できるようにした。

③ 情報内容及び内容の更新

病虫害発生予察情報、気象の季節予報など 毎月1回更新

注意報・特殊報、病虫害の発生状況グラフなど 随時更新

(3) 提供実績



産業・しごと

農林事務所・農林技術研究所

▼ 農林技術研究所

- > 第2回イチゴ研究成果発表会が開催されます。(県内イチゴ生産関係者限定)
- > イチゴ研究成果発表会が開催されます。(県内イチゴ生産関係者限定)
- > 随時契約締結状況について
- > シルバー人材センターの発注見直しについて
- > クラウドファンディング型研究に、ご支援ありがとうございます
- > しずおか有用微生物ライブラリーの公開について
- > いちご「紅ほっぺ」の許諾手続が不要になりました
- > 農林技術研究所ニュース(バックナンバー)
- > 農林技術研究所の概要

病虫害防除所

いいね! 6

ページID1058714
 更新日 2025年3月28日

印刷
 大きな文字で印刷

- 発生予察情報
予察情報、注意報・警報、特殊報、及び技術情報を掲載しています。
- 病虫害発生状況関連情報
防除所が実施した巡回調査結果や、害虫の予察灯、フェロモントラップによる調査結果、及び、防除時期等の予測に関する資料を掲載しています。
- 病虫害発生予察事業年報
病虫害防除所の、1年間における活動報告書です。
- 農業安全使用指針・農作物病虫害防除基準(外部リンク)
「農業安全使用指針・農作物病虫害防除基準」へのリンクです。

おしらせ

2025年3月28日

令和6年度病虫害発生予察注意報第6号 かんきつ、びわ、落葉果樹 果樹カメムシ類 を発表しました。

- 注意報・警報

令和6年度ホームページ閲覧数（令和7年3月末現在）

累計 35,655件

（参考）令和5年度 HP 閲覧数 13,458件

令和4年度 HP 閲覧数 13,834件

令和3年度 HP 閲覧数 16,558件

3 病害虫発生予察情報の内容

(1) 警報 : 発表しなかった。

(2) 注意報

号	発表年月日	対象病害虫名	対象作物名
1	令和6年 4月 4日	茶	カンザワハダニ
2	令和6年 8月 2日	水稻	斑点米カメムシ類 (アカスジカスミ カメ、アカヒゲホ ソミドリカスミカ メ、ミナミアオカ メムシ、イネカメ ムシ等)
3	令和6年 8月 2日	温州みかん	黒点病
4	令和6年 8月 2日	温州みかん・中晩柑類	かいよう病
5	令和6年 8月29日	果樹カメムシ類 (チャバネ アオカメムシ、ツヤアオカ メムシ、クサギカメムシ)	かんきつ、落葉果 樹 (なし、かき、 キウイフルーツ 等)
6	令和7年3月28日	果樹カメムシ類 (チャバネ アオカメムシ、ツヤアオカ メムシ、クサギカメムシ)	かんきつ、びわ、 落葉果樹 (うめ、 もも、なし、かき、 キウイフルーツ 等)

(3) 特殊報

号	発表年月日	対象病害虫名	対象作物名
1	令和6年 7月 4日	トマトキバガ	ー (農作物への被 害は確認されてい ない)
2	令和6年 7月 4日	トマト立枯病	トマト

(4) 一般発生予察情報

予報月	発表年月日	予報月	発表年月日
5月	令和6年 4月24日	11月	令和6年10月29日
6月	令和6年 5月28日	12月	令和5年11月27日
7月	令和6年 6月26日	1月	令和6年12月24日
8月	令和6年 7月30日	2月	令和7年 1月28日
9月	令和6年 8月28日	3月	令和7年 2月26日
10月	令和6年 9月26日	4月	令和7年 3月25日

(5) 技術情報

号	発表年月日	対象病虫害名	対象作物名
1	令和6年 7月30日	果樹カメムシ類 (チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ)	かんきつ、落葉果樹 (なし、かき、キウイフルーツ等)
2	令和6年 8月28日	茶	カンザワハダニ
3	令和6年 10月29日	ハスモンヨトウ	作物全般
4	令和6年 11月27日	たまねぎ	腐敗病
5	令和6年 11月27日	炭疽病	いちご
6	令和6年 11月27日	アザミウマ類 (ヒラズハナアザミウマ)	いちご

病害虫名：カンザワハダニ
対象作物：茶

1 注意報の内容

- (1) 発生が予想される地域：県内全域
- (2) 発生が予想される時期：4月
- (3) 発生程度：多い
- (4) 防除時期：4月上旬

2 注意報発表の根拠

- (1) 令和6年3月上旬に行った巡回調査では、茶株の樹冠面における寄生葉率が県平均2.3%（平年0.9%）、裾部における寄生葉率が県平均4.5%（平年1.1%）と平年より多かった（表1）。地域別では、牧之原及び小笠・磐田原地域の雌成虫の樹冠面平均寄生葉率がそれぞれ3.8%（平年0.3%）及び3.7%（平年0.6%）と特に高かった。
- (2) 本種を捕食する天敵のカブリダニ類の発生は、3月の調査時点では確認できていない（平年の平均叩き落とし虫数0.05頭/4か所）。
- (3) 名古屋地方気象台によると、1か月予報（3月21日発表）では、降水量は平年より多いものの、気温は平年より高いため、発生が助長される恐れがあり、今後とも注意が必要である。

3 防除方法

- (1) 発生状況をよく観察し、樹冠面で寄生を確認した場合は速やかに防除を実施する。薬剤の選択に際しては、摘採前日数に注意する。
- (2) 薬剤感受性の低下を避けるため、作用機分類コードを参照し、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。薬剤については静岡県農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準 (<https://www.s-boujo.jp>) を確認する。
- (3) 凍霜害等を受けた茶園では、被害を受けたなかった新芽にハダニが集まり集中加害することがあるので、防霜対策を万全にする。

表1 3月上旬における県内各地域のカンザワハダニの発生状況

雌成虫平均寄生葉率 (%)							
	地域	富士山麓	静岡市 北部	牧之原	小笠・ 磐田原	川根	県全域
樹冠面	本年	1.7 ¹⁾	1.0	3.8	3.7	1.1	2.3
	平年	1.4	0.9	0.3	0.6	1.3	0.9
	平年比	1.2	1.1	12.7	6.2	0.8	2.6
裾部	本年	3.0	2.0	6.2	7.2	4.0	4.5
	平年	1.3	0.6	1.3	0.8	1.6	1.1
	平年比	2.3	3.3	4.8	9.0	2.5	4.1

1) 各地域の数値は、調査地点10地点の平均値。県全域は全50地点の平均値。



図1 カンザワハダニ雌成虫

(茶業研究センター提供)

図2 カンザワハダニの被害

(茶業研究センター提供)

問い合わせ先：静岡県病害虫防除所 (TEL: 0538-36-1543)

令和6年8月2日
静岡県病害虫防除所長

病害虫名：斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、ミナミアオカメムシ、イネカメムシ等）
対象作物：水稻

1 注意報の内容

- (1) 発生が予想される地域：県内全域（田方平坦地、東部高冷地を除く）
- (2) 発生が予想される時期：8～9月
- (3) 発生程度：多い
- (4) 防除時期：【斑点米カメムシ類（イネカメムシを除く）】

畦畔の除草

出穂10日前までに除草を終了する
普通期栽培では8月上旬まで

薬剤散布

出穂期～乳熟期
早期栽培では8月上旬まで
普通期栽培では8月中旬～9月上旬

【イネカメムシ】

薬剤散布

（不稔対策）

出穂期

普通期栽培では8月中旬
（斑点米対策）

出穂期の7～10日後（上記散布時期から7～10日後）

早期栽培では7月下旬～8月上旬

普通期栽培では8月下旬～9月上旬

2 注意報発表の根拠

- (1) 令和6年7月の県内4カ所の予察灯では、斑点米カメムシ類の誘殺数は同時期の
 平年（過去10年の平均）に比べて多く、浜松市中央区施路町では、644頭/19日
 （平年202頭/19日）と平年の3.2倍、島田市中河では747頭/15日（平年305頭
 /15日）と平年の2.4倍であった（表1）。うち、イネカメムシの誘殺数は、磐田
 市加茂では、115頭/21日（過去3年平均22頭/17日）、磐田市長須賀では、120頭
 /17日（過去3年平均51頭/17日）と同時期の過去3年平均より多かった（表1）。
- (2) 令和6年7月中下旬に行った水田周辺のすくい取り調査（捕虫網30回振り）によ
 る斑点米カメムシ類の捕獲数は、志太・榛原および中遠・西部普通期作型で、平年に
 比べて多かった（表2）。
- (3) 名古屋地方気象台の1か月予報（7月25日発表）では、降水量はほぼ平年並なも
 の、気温は平年より高いため、発生がさらに助長される恐れがあり、今後も注意
 が必要である。

3 防除方法

- (1) 畦畔など水田の周囲のイネ科雑草は、斑点米カメムシ類（イネカメムシを除く）
 の発生源となるため、地域全体で一斉に除草する。また、アカスジカスミカメは
 カヤツリグサ科雑草にも寄生するので、カヤツリグサ科雑草も除草する。ただし、
 水稻の出穂間際の除草は斑点米カメムシ類の水田への侵入を助長するため、出穂
 10日前までに除草を終了する。
- (2) イネカメムシは他の斑点米カメムシ類と異なり、越冬地から水田に直接飛来して
 くるため、畦畔の除草による密度低減効果は低い。
- (3) 出穂以降は水田内の斑点米カメムシ類の発生に注意し、確認した場合は薬剤防除
 を実施する。特に出穂が周辺より早い水田は斑点米カメムシ類が集中するため注
 意する。
- (4) 斑点米カメムシ類（イネカメムシを除く）に対する薬剤散布は、穂揃期（成虫侵入
 期）とその7～10日後（幼虫ふ化期）の2回散布を行うと効果が高い。
- (5) イネカメムシに対する薬剤散布は、不稔対策として出穂期（成虫侵入期）に、斑点
 米対策として出穂期から7～10日後（幼虫ふ化期）に行うと効果が高い。
- (6) 薬剤感受性の低下を避けるため、作用機構分類コードを参照し、異なる系統の薬
 剤をローテーション散布する。薬剤については「[農薬安全使用指針・農作物病害
 虫防除基準](#)」を参照する。

表1 県内4カ所の予察灯における斑点米カメムシ類の誘殺数

	地域 (期間)	誘殺数 (頭)				
		島田市	磐田市	磐田市	浜松市	
		中河 (7/1-7/15)	長須賀 (7/1-7/17)	加茂 (7/1-7/21)	中央区施路町 (7/1-7/19)	
斑点米カメムシ類 (平年)	747 (305.0)	221 (120.4)	196 (88.1)	644 (202.1)		
うち、イネカメムシ (過去3年平均)	13 (4.6)	120 (44.8)	115 (23.3)	32 (2.6)		

表2 7月の畦畔・雑草地における斑点米カメムシ類のすくい取り調査結果

	地域	捕獲数 (頭/30回振)				
		田方 平坦地	東部 高冷地	志太 榛原	中遠・西部 普通期	早期
斑点米カメムシ類 (平年)	7.0 (11.0)	0.4 (4.5)	19.1 (15.9)	38.9 (31.4)	8.2 (23.5)	
うち、イネカメムシ (過去3年平均)	0.2 (0.0)	0.0 (0.0)	0.5 (0.3)	0.6 (0.0)	0.6 (0.4)	



図1 イネカメムシ成虫



図2 アカスジカサミカメ成虫

【問合せ先】静岡県病害虫防除所

〒438-0803 磐田市富丘 678-1 TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780

ホームページ <https://www.pref.shizuoka.jp/sangyosho/norinjimusho/1058658/houjo/index.html>



令和6年8月2日
静岡県病害虫防除所長

病害虫名：黒点病
対象作物：温州みかん

1 注意報の内容

- (1) 発生が予想される地域：県内全域
(2) 発生が予想される時期：8～10月
(3) 発生程度：多い
(4) 防除時期：8～9月

2 注意報発表の根拠

- (1) 令和6年7月中旬の巡回調査では、発病度は2.43(平成0.22)で平年より多かった(図1)。地域ごとの発病度は東部が2.94(平成0.28)、中部が2.04(平成値0.16)、西部が2.32(平成0.22)である。
- (2) 発病度の数値がここ10年間で最も高い(図2)。
- (3) 今後、台風の襲来などで本病にとって好適な条件となった場合、感染拡大が懸念される。

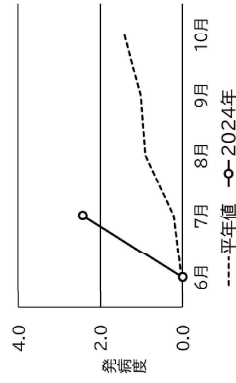


図1 黒点病の発病度

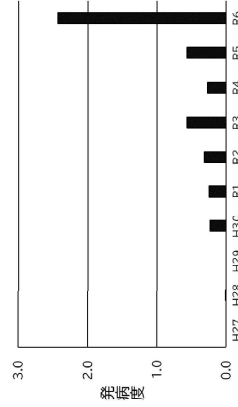


図2 年度別発病度（7月）

3 防除方法

- (1) 枯枝は伝染源になるため園地から除去する。
- (2) 防除実施以降の累積降水量が250mmに達した時点、または防除実施日から25～30日経過が次の防除実施の目安となる。アメダスの気象データなどから栽培地域での累積降水量を確認し防除を実施する。
- (3) 本病の果実への感染時期は6～10月であり、長期に渡って感染するため、防除適期を逸しないよう注意する。
- (4) 早生品種を栽培している場合は、薬剤と収穫前日数に注意する。
- (5) 農薬による防除については「[農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準](#)」を参照する。
- (6) 不明な点については病害虫防除所、農林技術研究所果樹研究センター、最寄りの農林事務所、農協等に問い合わせる。

【問合せ先】静岡県病害虫防除所

〒438-0803 磐田市富丘 678-1 TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780

ホームページ
<https://www.pref.shizuoka.jp/sangvoshigoto/norinjimusho/1058658/boujo/index.html>



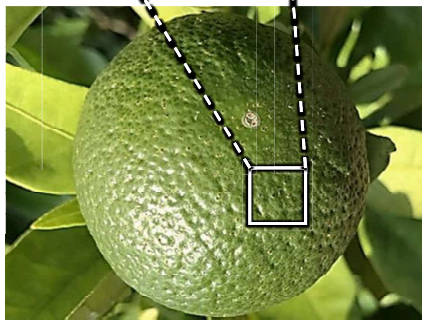


図3 果実の病斑（散見）



図4 病斑の拡大図



図5 雨滴の流れに沿った病斑

令和6年度 病害虫発生予察注意報第4号

令和6年8月2日
静岡県病害虫防除所長

病害虫名：かいよう病
対象作物：温州みかん、中晩柑類

1 注意報の内容

- (1) 発生が予想される地域：県内全域
- (2) 発生が予想される時期：8～10月
- (3) 発生程度：多い
- (4) 防除時期：8～9月

2 注意報発表の根拠

- (1) 本病は、温州みかんでは例年ほとんど発生しないが、令和6年7月中旬の巡回調査では、葉の発病度は0.56（平年0.09）、果実の発病度は0.14（平年0.02）で平年より多かった（図1、2）。
- (2) 令和6年7月中旬の中晩柑類の巡回調査では、葉の発病度は1.82（平年0.46）、果実の発病度は1.04（平年0.21）で平年より多かった（図3、4）。
- (3) 本病の病原細菌は、風雨によって飛散・感染するため、台風などの強風を伴う雨による感染の拡大が予想される。夏秋梢に感染すると越冬病斑となり、来年への影響も懸念される。

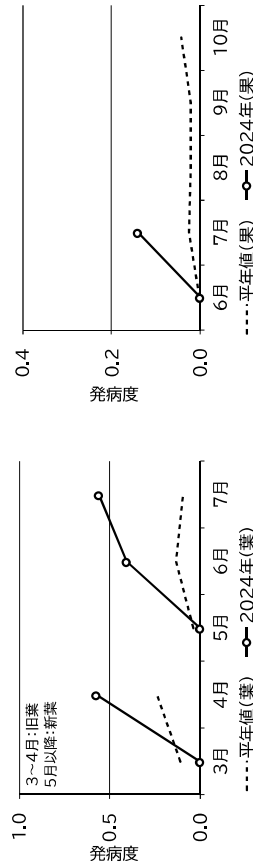


図1 温州みかんにおけるかいよう病の発病度（葉）

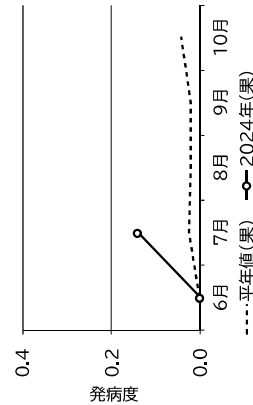


図2 温州みかんにおけるかいよう病の発病度（果実）

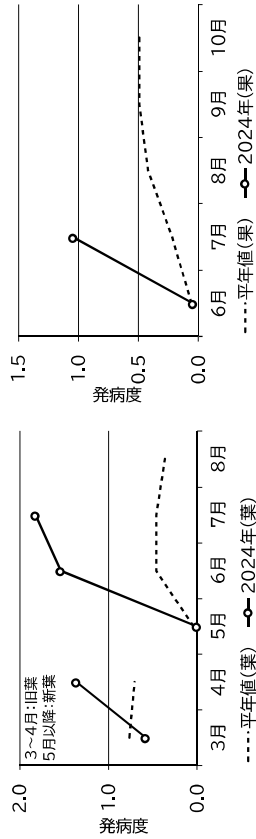


図3 中晩柑類におけるかいよう病の発病度（葉）

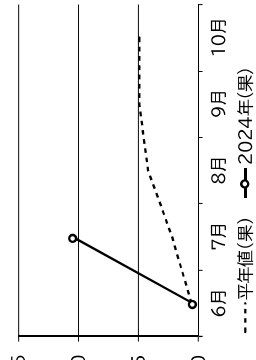


図4 中晩柑類におけるかいよう病の発病度（果実）

3 防除方法

- (1) 発病枝は伝染源になるため除去する。
- (2) 本病の防除は感染前の予防が重要である。感染後の防除では効果がないため、薬剤の予防散布に努める。
- (3) 中晩柑類では、台風襲来前に予防散布を行う。
- (4) 温州みかんでは本病の発生が予想される圃地では、中晩柑類に準じた防除を行う。ただし、温州みかんでは6月以降の銅剤散布は中晩柑類に比べ被害が出やすい。
- (5) 農薬による防除については「[農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準](#)」を参照する。
- (6) 強風は風ずれ等の傷や病原細菌の飛散につながるため、防風垣、防風網の整備等を行い、防風対策に努める。
- (7) ミカンハモグリガの被害部は本病の発生を助長するため、ミカンハモグリガの防除に努め、被害枝は除去する（図8）。
- (8) 不明な点については病害虫防除所、農林技術研究所果樹研究センター、最寄りの農林事務所、農協等に問い合わせる。

【問合せ先】 静岡県病害虫防除所

〒438-0803 磐田市富丘 678-1 TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780

ホームページ <https://www.pref.shizuoka.jp/sanyoshigoto/norin.jimusho/1058058/boujo/index.html>





図5 葉の発病



図6 葉の病斑(上:葉表 下:葉裏)



図7 果実の病斑



図8 ミカンハモグリガによる被害

令和6年8月29日
静岡県病害虫防除所長

病害虫名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）
対象作物：かんきつ、落葉果樹（なし、かき、キウイフルーツ等）

1 注意報の内容

- (1) 発生が予想される地域：県内全域
(2) 発生が予想される時期：8～10月
(3) 発生程度：多
(4) 防除時期：8～10月

2 注意報発表の根拠

- (1) 県内4か所の予察灯における8月1～20日の合計誘殺数の平均は、1586頭（平年152頭、平年比10.4倍）と平年より多かった（図1）。なお、本虫の内訳は、チャバネアオカメムシが926頭（平年366頭）、ツヤアオカメムシが325頭（平年66.8頭）、クサギカメムシが335頭（平年121頭）であった。
- (2) 県内6か所のフェロモントラップにおける8月1～20日の合計誘殺数の平均は、295頭（平年167頭、平年比1.8倍）と平年より多かった（図2）。なお、本虫の内訳は、チャバネアオカメムシが292頭（平年159頭）、ツヤアオカメムシが0.8頭（平年5.8頭）、クサギカメムシが2.9頭（平年2.1頭）であった。
- (3) ヒノキ・スギ球果の着果量（指数）は、県平均7.1（平年4.4、平年比1.6倍）と平年より多かった（「令和6年度技術情報第1号」参照）。なお、本虫は球果を餌として増殖するため、着果量が多いと本虫は増えやすくなる。
- (4) 8月のヒノキ球果における平均寄生数は、10結果枝あたり13.1頭（平年3.1頭、平年比4.2倍）と平年より多かった（図3）。
- (5) 8月のヒノキ球果における球果1個あたりの本虫の吸汁痕数は、平均15.2（平年10.1、平年比1.5倍）と平年より多かった（図4）。なお、ヒノキ球果における吸汁痕数が25を超えると、本虫はヒノキから離脱し、餌を求めて果樹園に飛来するとされている。
- (6) 果樹関係の病害虫防除員18名からの報告によると、本虫の発生について9名が「多い」または「やや多い」と回答した。また、一部の果樹園で本虫の飛来を確認したとの情報が複数寄せられている。
- (7) 名古屋地方気象台による1か月予報（令和6年8月22日発表）では、降水量は平年より多いが、気温は平年より高いため、本虫の発生を助長する。本虫が急増し、ヒノキ・スギ球果を吸い尽くすと、新たな餌を求めて果樹園へ飛来し、果実を加害する恐れがある（図5）。

3 防除方法

- (1) ヒノキ球果での本虫吸汁痕数をもとにした予測試（堤、2003）によるヒノキからの離脱予測日（果樹園への飛来予測日）は、9月5～10日頃（地域により異なる）と予想される。ただし、吸汁痕数が最も多い地点での飛来予測日は8月29日頃と予想される。
- (2) 本虫の飛来に細心の注意を払い、ほ場で少数でも発生を確認したら、本虫が集合フェロモンを放出し大量飛来を招く前に直ちに薬剤防除を行う。また、成虫の移動範囲は広い¹ため、地域での一斉防除が効果的である。なお、ヒノキ・スギ林の隣接地域（特に中山間地）や²台風・暴風雨後の園地では、³急激に発生が増加する場合があるので注意する。
- (3) 薬剤防除については、静岡県病害虫防除所による「[静岡県農業安全使用指針・農作物病害虫防除基](#)

準」を参照する。なお、薬剤の選択に際しては収穫前日数に注意する。

- (4) [静岡県病害虫防除所ホームページ「害虫誘殺グラフ」](#)では、本虫に関する各種情報（予察灯及びフェロモントラップにおける発生状況、ヒノキ・スギ球果の着果量、球果における寄生数、ヒノキ球果での吸汁痕数、果樹園への飛来予測日等）を随時提供しているので参照する。
- (5) 本虫の発生は例年10月末で終息するが、最高気温が20℃を超える場合は11月でも発生することがあるため注意する。
- (6) 不明な点については病害虫防除所、農林技術研究所果樹研究センター、農林事務所等の指導機関に問い合わせる。

【問合せ先】静岡県病害虫防除所

〒438-0803 磐田市富丘 678-1 TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780

ホームページ <https://www.pref.shizuoka.jp/saigyoshigoto/norinijimusto/1058658/houjo/index.html>



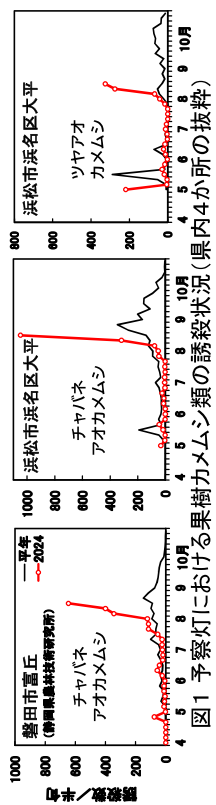


図1 予察灯における果樹カメムシ類の誘殺状況(県内4か所の抜粋)

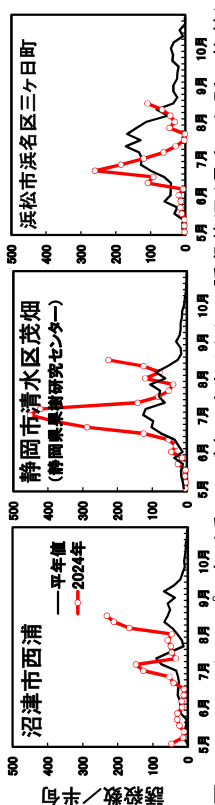


図2 フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺状況(県内6か所の抜粋)

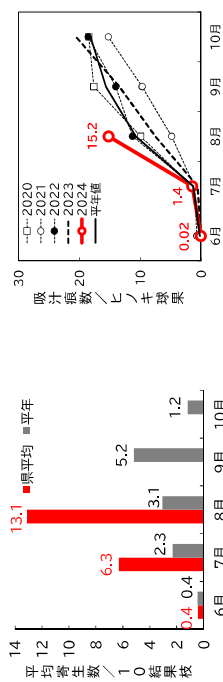


図3 ヒノキ・スギ球果における
果樹カメムシ類の寄生数

図4 ヒノキ球果における
果樹カメムシ類の吸汁痕数



図5 果樹カメムシ類とその被害果実

令和7年3月28日
静岡県病害虫防除所長

病害虫名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）
対象作物：かんきつ、びわ、落葉果樹（うめ、もも、なし、かき、キウイフルーツ等）

1 注意報の内容

- (1) 発生が予想される地域：県内全域
(2) 発生が予想される時期：4～8月（越冬成虫）
(3) 発生程度：多
(4) 防除時期：4～8月

2 注意報発表の根拠

- (1) 令和6年8～10月の予察灯（県内4か所）における果樹カメムシ類（以下、カメムシ類）の合計誘殺数の平均は、28343頭/か所（平年2659頭、平年比10.7倍）と平年より多かった（図1）。
(2) 令和6年8～10月のフェロモントラップ（県内6か所）におけるカメムシ類の合計誘殺数の平均は、2040頭/か所（平年489頭、平年比4.2倍）と平年より多かった（図2）。
(3) 本年2～3月の越冬量調査（県内20地点）において、チャバネアオカメムシ越冬量/落葉1㎡は、県平均2.9頭（平年1.0頭）と平年より多かった（図3）。また、各地域における同種の越冬量/落葉1㎡は、東部地域1.6頭（平年1.3頭）、中部地域4.2頭（平年0.9頭）、西部地域2.9頭（平年1.0頭）と、特に中部及び西部地域で平年より多かった（図3）。
(4) カメムシ類の主な餌となるヒノキ球果の着果量は、隔年で豊凶を繰り返すことが多い。昨年は着果量が平年より多かった（データ略）ことから、本年は着果量が平年より少ないと予想される。カメムシ類の餌が不足することにより、本虫が新たな餌を求めて4～8月にかけて果樹園に大量飛来し、花・果実等を加害する恐れがある（図4）。
(5) 名古屋地方気象台による3か月予報（令和7年3月25日発表）では、東海地方における4～6月の平均気温は平年並みで高い見込みであり、本虫の発生を助長する。

3 防除方法

- (1) 昨年、西日本等の果樹産地では、カメムシ類の越冬成虫が4～8月にかけて果樹園に大量飛来し、本虫の加害による落花生・落果・新梢枯死等の被害が生じた。本県においても越冬成虫の飛来に細心の注意を払う。なお、静岡県病害虫防除所ホームページ「害虫誘殺グラフ」では、本虫に関する各種情報（予察灯及びフェロモントラップにおける発生状況、ヒノキ球果の着果量や球果における寄生数、球果での吸汁痕数、果樹園への秋季以降の飛来予測日等）を随時提供しているのので参照する。
(2) 静岡県病害虫防除所による今後の「病害虫発生予察情報」に注意するとともに、地域の予察灯やフェロモントラップにおけるカメムシ類の発生状況を参考にし、ほ場の見回りをこまめに行う。ほ場で少数でも本虫の発生を確認したら、本虫が集合フェロモンを放出し大量飛来を招く前に、直ちに薬剤防除を行う。また、周辺ほ場への大量飛来がみられた場合、飛来前の予防的な薬剤散布を心掛ける。なお、本虫の移動範囲は広いため、地域での一斉防除が効果的である。また、ヒノキ・スギ林の隣接地域（特に中山間地）や台風・暴風雨後の園地では、急激に発生が増加する場合があるので注意する。
(3) 薬剤防除については、静岡県病害虫防除所による「静岡県果樹安全使用指針・農作物病害虫防除基準」を参照する。なお、薬剤の選択に際しては収穫前日数や総使用回数に注意する。
(4) 不明な点については、病害虫防除所、農林技術研究所果樹研究センター、農林事務所等の指導機関に問い合わせる。

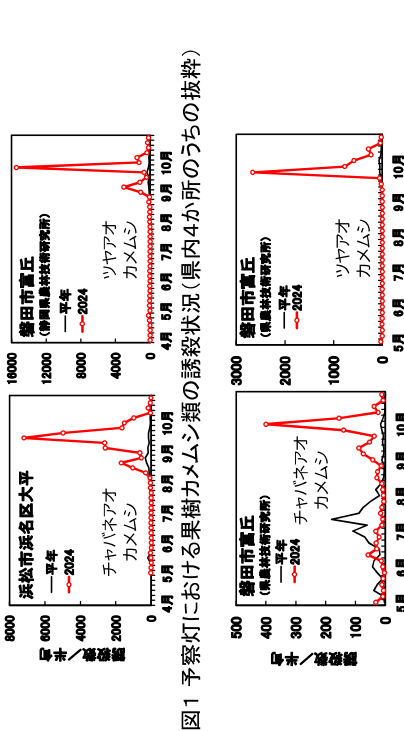


図1 予察灯における果樹カメムシ類の誘殺状況（県内4か所のうちの抜粋）

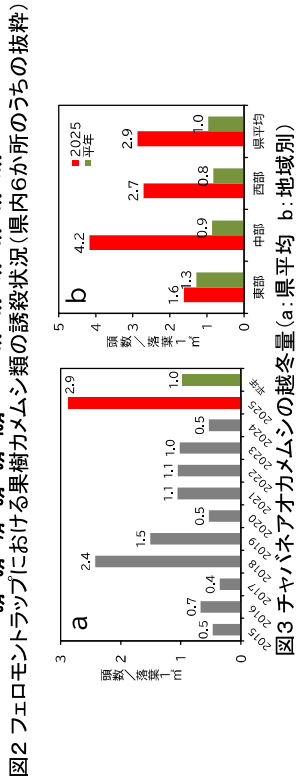


図2 フェロモントラップにおける果樹カメムシ類の誘殺状況（県内6か所のうちの抜粋）

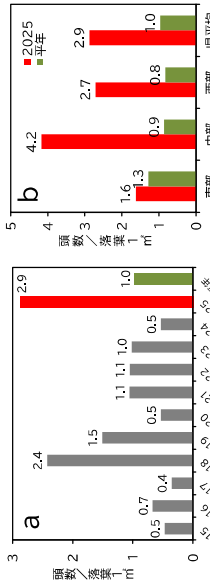


図3 チャバネアオカメムシの越冬量 (a.県平均 b.地域別)



図4 果樹カメムシ類とその被害果実

【問合せ先】 静岡県病害虫防除所

〒438-0803 磐田市富丘 678-1 TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780

ホームページ <https://www.pref.shizuoka.jp/sanyoshito/norinimusho/058658/boujo/index.html>



令和6年度病害虫発生予察特殊報第1号

令和6年7月4日
静岡県病害虫防除所長

- 1 病害虫名

和名：トマトキバガ
学名：Tuta absoluta (Meyrick)
- 2 発生作物

－（農作物への被害は確認されていない）
- 3 確認経過

(1) 令和6年6月に、静岡県西部地域のばれいしょほ場周縁部に設置したトマトキバガ侵入警戒用フェロモントラップにチョウ目成虫が複数誘殺された（図1）。

(2) 静岡県病害虫防除所において形態観察を行ったところ、県内では未確認であったトマトキバガであることが疑われた。

(3) これら疑義虫の同定を農林水産省名古屋植物防疫所清水支所に依頼した結果、トマトキバガ（図2）であることが判明した。

(4) 県内では本種のフェロモントラップを3地点に設置しているが、他の2地点での誘殺は確認されていない。

(5) 現在までに、県内での農作物への寄生及び被害は確認されていない。
- 4 特徴

(1) 分布

本種の原産地は南米で、ヨーロッパ、アフリカ、中米、中東、アジアに分布を拡大している。

国内では、令和3年に熊本県で初めて確認され、沖縄県から北海道までの本県を含む計40道府県で確認されている。

(2) 寄主植物

主な寄主植物はトマト、ばれいしょ、なす、ピーマンなどのナス科植物で、マメ科のいんげんまめも寄主植物として報告されている。また、イヌホウズキなどのナス科雑草にも寄生するとされている。

(3) 形態

成虫は、翅を閉じた状態で体長約5mm（開張約10mm）で、前翅は灰褐色地に黒色斑が散在し、後翅は一律に淡黒褐色である（図3）。

幼虫は、終齢で体長約8mm、体色は淡緑～淡赤白色で、前胸の背面後方に細い黒色横帯がある（図4）。

(4) 生態

1年に複数の世代が発生し、繁殖力が高い。卵～成虫までの期間は24～38日程度で、気温が低い時期はさらに延びる。成虫は夜行性で、日中は葉の間に隠れていることが多い。雌は一生のうちに平均約260個の卵を寄主植物の葉裏などに産み付ける。

(5) 農作物への食害

国内では、熊本県（令和3年）、宮崎県（令和3年）、北海道（令和5年）、及び岐阜県（令和6年）において、トマトでの食害が確認されている。なお、現在までに、その他の作物における国内での食害は確認されていない。

トマトでは、幼虫が茎葉に潜り込み、表面を残して食害するため、食害部は薄皮状となり白～褐変した外観となる（図5左）。また、幼虫が果実にも食入し、せん孔痕が形成
- されるときともに、食害部に腐敗が生じ、品質が著しく低下する（図5右）。
海外のばれいしょでは、幼虫が地上部を食害し（図6）、まれに塊茎（いも）にも食入するとされている。
- 5 防除対策
- (1) 施設栽培では、開口部に防虫ネットを設置し、侵入を防止する。

(2) ほ場内をよく観察し、早期発見に努める。本種と疑われる虫を見つけた場合は、速やかに最寄りの農林事務所または病害虫防除所に連絡する。

(3) トマト及びミニトマトでは、本種に登録のある薬剤を使用して防除する。なお、現在（令和6年7月4日時点）、これら作物を除き本種に登録のある農薬はない。薬剤散布にあたっては、最新の農薬登録情報（農林水産省「農薬登録情報提供システム」<https://pesticide.maff.go.jp/>）を確認する。なお、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統（IRACコード）の異なる薬剤をローテーション散布する。

(4) 被害植物をほ場内に放置せず、速やかに埋設するか袋に密閉し、本種をすべて死滅させる等、適切に処分する。
- 【問合せ先】静岡県病害虫防除所
- 〒438-0803 磐田市富丘 678-1 TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780
- ホームページ <https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinjimusho/1058658/boujo/index.html>
-
- 25 -



図1 誘殺されたチョウ目成虫



図2 トマトキバガ成虫



図3 トマトキバガ成虫 (開張)



図4 トマトキバガ幼虫



図5 トマトにおける食害痕
(左: 葉 右: 果実)



図6 ばれいしよ葉に
おける食害痕

注) 図2～6: 農林水産省植物防疫所原図 ※写真の無断転載禁止

令和6年度病害虫発生予察特殊報第2号

令和6年7月4日
静岡県病害虫防除所長

- 1 病害虫名 病名：トマト立枯病
病原菌：Fusarium solani-melongenae (Haematonectria ipomoeae)
- 2 発生作物 トマト
- 3 発生経過
 - (1) 県内のトマト栽培施設で地際部や葉かき跡が褐変腐敗する症状の発生がみられたことから、令和6年3月に西部地域の10施設を調査したところ、8施設で本症状が確認された。
 - (2) 現地で採取した罹病株から分離した菌の形態および遺伝子配列を確認したところ、6菌株がトマト立枯病の病原菌である *Fusarium solani-melongenae* (*Haematonectria ipomoeae*) と一致した。
 - (3) 分離菌株をトマトに接種したところ、発病が確認された。
- 4 国内の発生状況

本病は平成2年に愛知県で初めて発生が確認され、その後7県で発生が報告されている。
- 5 病徴
 - (1) 地際部や葉かき跡に褐変、ひび割れがみられ、発病部位の内部にも進展する(図1、2)。
 - (2) 罹病部の表面には赤色の小粒(子のう殻)を形成する場合がある(図3、4)。
 - (3) 症状が進展すると葉の黄化、株の萎れを生じ、枯死する。
- 6 防除対策
 - (1) 現時点(令和6年7月4日)で本病に対する登録農薬は無いため、耕種的な防除を実施する。
 - (2) 生産資材の交換や消毒を実施する。
 - (3) 罹病株は伝染源となり得るため、発見後は抜き取り、ほ場外で適切に処分する。
 - (4) 栽培終了後は残渣を残さず除去し、施設内の衛生管理に努める。
 - (5) 定植前に太陽熱土壌消毒などの防除を実施する。



図1 地際の褐変

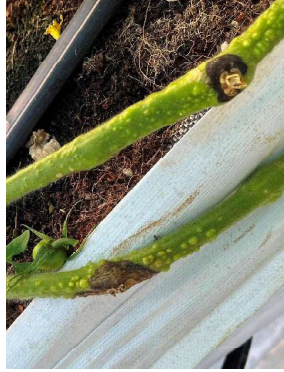


図2 葉かき跡の褐変



図3 地際に形成された子のう殻

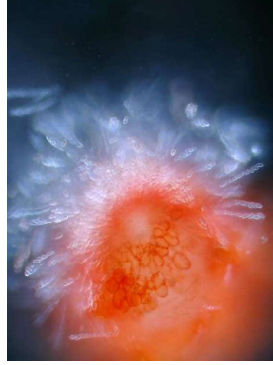


図4 子のう殻と子のう胞子

【問合せ先】静岡県病害虫防除所

〒438-0803 磐田市富丘 678-1 TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780

ホームページ <https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinijumusho/1058658/boujo/index.html>

